

「東京すていしよん」
停車場の人ごみを來て、
なつかしき。
ひそかに
茶など飲みて
戻らむ
〔春のことぶれ〕
釈 遥空

国学院大学 令和元年12月20日(金) 定期号(毎月20日発行) 1部20円
[発行]国学院大学 [編集]総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目 [電話]03(5466)0130 [FAX]03(5466)0528

祭儀 ■大祓 12月27日(金) 午後4時 神殿前庭 ■歳旦祭 1月1日(祝・水) 午前11時 神殿

令和「新時代」の「新」経済学部 基礎と実践、 そして主体性を

令和2年4月、国学院大学経済学部は現行の3学科制から経済学科、経営学科の2学科8コース制生まれ変わる。昭和41年に当時の政経学部から独立する形で誕生して以来、50年を超す歴史を刻んできた同学部の改組は、平成17年の経営学科開設以来15年ぶり。時代を切り拓くことができる、より実践的な経済学・経営学を身につけた人材を育てることが目的となる。

今回の改組では、地球環境と開発▽地域づくりと福祉▽情報メディアの3コースで深めてきた経済ネットワークワーキング学科での学びを経済・経営の両学科に引き継ぎ、経済理論とデータ分析▽経済史▽地域経済▽日本経済▽グローバル経済の5コースが経済学科に、ビジネスリーダー▽ビジネスクリエイター▽ビジネスアナリストの3コースが経営学科に、それぞれ設置される。

新体制では、①アクティブラーニング②課題解決型授業③実践型授業の3つを重視。さらに、ゼミに所属する学生は卒業論文が、所属しない学生も卒業レポートが必修となり、経済学部で学んだ成果を形として残すことになる。

橋元秀一学部長・教授は「情報化や地域経済の諸問題など経済ネットワークワーキング学科での学びが普遍的な課題となった。新しい時代には新しい時代を担う若い人たちの主体性をどうつくり上げて、新しい時代をデザインしていくかというところが重要だが、残念ながら日本の経済社会全体で組織できないでいる。改組によって、新しい時代に力を発揮する人材育成の環境を整備していく」としている。

〔6・7面に関連記事〕



西南学院大学と連携へ基本協定締結

国学院大学と西南学院大学(福岡市)は研究、教育などで相互に連携・協力することを目的とした基本協定を締結した。12月9日に西南学院大で行われた調印式では、針本正行学長とG・W・バークレー学長が協定書に調印した。針本学長は「両



大学は、共にミッションに拠って立つ大学である。その両大学が連携のための協定を締結することには、大きな意義がある。知と知の交流によって新しい知が創造されることに期待する」と挨拶し、バークレー学長は「AIの時代にあって、大切なのは人間の心、Compassion(思いやり)である。両大学は、基盤となる宗教そのものは違うが、学問的にも精神的にも繋がりがあがる。双方が刺激を与えあい、新たな価値を作っていきたい」と応じた。

西南学院大と本学は、平成25年に両大学の博物館で特別展「日本信仰の源流とキリスト教」受容と展開、そして教育」を共同開催。これを契機として、博物館の恒常的な連携を深めるため、26年7月に、「西南学院大学博物館と国学院大学博物館との研究協力に関する協定書」を締結した。以来、共同研究計画に基づき特別展示、相互貸借展示、普及イベントの立案・実施を通して、教職員・学生の相互交流を促進するとともに、研究・教育活動の充実を目指してきた。

本協定の締結により、神道とキリスト教を建学の精神に据える両大学は、双方の発展に向けて、具体的な連携・協力について検討を進めることとなる。

みはるかすもの

「街の灯」モダン・タイムス「独裁者」などの傑作で喜劇王と呼ばれるチャールズ・チャップリン。今年生誕130年の節目に当たる。山高帽を被り、鼻の下のちよび髭にステッキを手にした扮装で、鋭い社会風刺をユーモアに織り交ぜたコメディイを多く世に送り出した彼が生きたのは戦争の時代でもある▼自伝の中で第一次世界大戦を振り返り「近代科学戦争の発達は、莫大な人命を犠牲にする恐れがあるから、きつと人類はそのような蛮行の停止を要求するだろう(略)しかし、それはまちがっていた」と語る▼21世紀になっても世界各地で戦争の火は消えない。アフガニスタンで銃撃されて亡くな

った医師の中村哲さんは、長年、農業用水路の建設など現地の復興に携わってきた▼武力による応酬が今なお絶えないアフガニスタン。一方で気候変動により干魃や大規模な洪水が頻発し、主要産業の農業が壊滅的な被害を受けている。収入がなくなつた人々の中には人身売買や反政府武装勢力の戦闘員になって収入を得る人も少なくないという▼中村さんは所属する福岡市のNGO「ペシャワール会」の活動報告で「治安悪化の著しい地帯は、完全に干魃地図と一致するとし」一連の動向は世界の終末さえ連想する絶望的なもの」と伝える▼世界で続く武力の応酬や憎しみの連鎖、荒廃する大地。中村さんが伝え続けてきた目を背けてはいけない現実が世界に多くあることを、今改めて考えなければならぬ。



コメ作りWS 彬子女王殿下 学生らと新米の食事会



彬子女王殿下（本学特別招聘教授）が総裁を務められる一般社団法人心游舎と本学の共催による「新潟コメ作りワークショップ」の食事会が12月10日、渋谷キャンパスで行われた。

同ワークショップは今年で4回目となり、新潟市北区の田んぼで、田植え、草取り、稲刈りを行ってきた。食事会には、彬子女王殿下が出席され、佐柳正三理事長以下役教職員や田植えや稲刈りに参加した学生約15人と、収穫した新米を召し上がられた。

彬子女王殿下は「4年目のワークショップが無事に終わることができ感謝しています。ワークショップを通じて、コメ作りだけでなく日本の伝統文化を考える機会になればうれしく思います」とお言葉を述べられた。

井上名誉教授 米国芸術科学アカデミー入会式に出席



米国芸術科学アカデミーの入会式が10月12日、マサチューセッツ州ケンブリッジで行われ、国内の宗教学者として初めて外国人名誉会員に選ばれた本学の井上順孝名誉教授（宗教社会学）らが出席した。

米国芸術科学アカデミーは、1780年に創設された米国最古の学術組織で、それぞれの時代に多大な影響を持つ人々が会員に選出されてきた。米国初代大統領のジョージ・ワシントンや物理学者のアルバート・アインシュタインのほか、日本人で初めてノーベル賞を受賞した物理学者の湯川秀樹をはじめ各国の政治家、科学者、思想家らが名を連ねている。井上名誉教授は、今年4月に「人文科学・芸術」部門の新会員として選出されていた。

訃報 中野名誉教授

中野達名誉教授が11月3日に逝去。88歳。葬儀は、近親者により執り行われた。

中野氏は昭和6年生まれ。昭和31年東京教育大学文学部卒業、33年同大学院文学研究科修了。31年国学院大学文学部助手、33年専任講師、39年助教授、49年教授。平成13年定年退職、名誉教授。

専門は中国語学。著書に『中国語総合教本—基礎から発展まで』（東方書店）、『カラー音節表による中国語発音のすべて』（駿河台出版社）などがある。

教職員人事

採用
◎大学事務局◇嘱託▽杜育銘（国際交流事務局国際交流課）
以上、令和元年12月1日付



（右から）針本正行学長、両角正芳町長、アケチ・オクロク特命全権大使と
勝野美江企画・推進統括官（左端）

日本とウガンダの未来考える

「2020」テーマに水曜講座



ウガンダ、立科町、本学をつないだ奥龍将さん

「TOKYO2020に向け、「スポーツを通して地域・世界を考える」を主題とした令和元年の国学院大学水曜講座が11月20日、渋谷キャンパスで開催された。

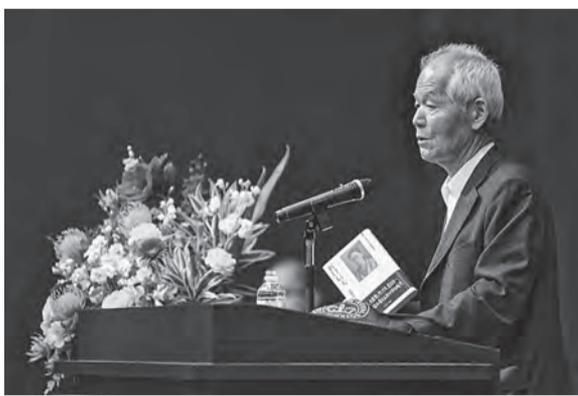
講座の副題は「2020年東京オリンピック・パラリンピックがもたらす日本とウガンダ共和国の未来」。基調講演で内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局の勝野美江企画・推進統括官が「一人一人が大会に関わることが大事。ホストタウンの中高校生による応援も始まっているので、大学生も負けずに関わってほしい」と訴えた。

両角町長は「ホストタウンとして中長距離選手の活躍を後押しし、町を準高地トレーニングの聖地にした」と抱負を述べ、アケチ・オクロ大使は「ホストタウンや国学院大学とウガンダをつないでくれた奥さんに感謝したい。2020年の大会ではウガンダ選手が活躍するので、国学院大学の学生さんも応援してほしい」と強調。最後に針本学長が「ウガンダや立科町とのつながりが形式的なものではなく、深い交流となるよう学生も考えてもらいたい」と締めくくった。

神道研究通じた「折口像」紹介 公開学術講演会で阪本是丸教授

国学院大学研究開発推進機構の公開学術講演会（武田秀章機構長）が11月16日、渋谷キャンパス常磐松ホールで開催され、阪本是丸研究開発推進センター長・神道文化学部教授が「折口信夫と神道・国学―『異訳国学ひとり案内』から『神やぶれたまふ』まで―』と題して講演した。

当日の会場には、220人を超える聴衆が詰めかけた。講演で阪本教授は、折口信夫の神道、国学論を考えるにあたり、「国学院大学、神社界との関わりや、時代背景、人的ネットワーク、当時の神道・国学的な考え方、新国学も含めて、国学とは何かを考える必要がある」と指摘。神社界に深く関係する国学院大学の教授であった折口が、神の観念や天皇について、当時、山本信哉、植木直一郎らも真剣に議論し執筆を進める中で、真剣に考え検討した足跡や、神社界、本学に関わる人的ネットワークなどを紹介した。



また、折口の各種年譜などに取り上げられる昭和8年の「十人組徒党事件」にも言及し、皇典講究所を経営母体とする国学院大学の特殊性や、大学における軍事教練、配属将校の問題なども含めて、資料に基づく地道な検討をする必要があると指摘。さらには、折口の短歌と学問研究との関係性などにも言及した上で、折口の明治天皇に対する思いと神武創業への思いを指摘し、「先生は権原の御代になる前までの道を突きとめたかった」と述べた。

石川副学長ら イタリア・カタールニア大学を訪問



石川則夫副学長（文学部長・教授）と中村正明文学部准教授は10月30日、イタリアの国立カタールニア大学を訪問。同大のカタールニア本校とラグーザ市のラグーザ校で石川副学長が川端康成の『伊豆の踊子』について、中村准教授が黄表紙研究についてそれぞれ講演した。

カタールニア大学は、シチリア島東部のカタールニア県にあり、1434年に設立されたイタリアで最も歴史のある国立総合大学。学生数は約4万5000人で、17学科24研究所などを擁している。

三味線でケルト叙事詩をうたう



文学部外国語文化学科の「多言語・多文化の交流と共生」プロジェクトの一環として、「ライブ&トーク 三味線で唄うケルト叙事詩『木の戦い』」が11月21日、渋谷キャンパス常磐松ホールで開催された。

複数の文化や言語が交わる現場に着目する同プロジェクトは、7回目の開催。今回は、6世紀のウェールズで活躍した伝説の吟遊詩人タリエシンの作とされる叙事詩「木の戦い」の訳詞に長唄三味線で作曲をした杵屋浅吉さんが登壇した。

浅吉さんは、江戸時代から続く伝統音楽の長唄を歌舞伎の代表作「勧進帳」などの演奏を通じて紹介。続いて「(三味線で)ケルト音楽の真似は可能だが、日本人が日本の音楽で作るとどうなるかをテーマに、長唄にある手法をなるべく取り入れた」と作曲の苦勞を振り返り、古代ケルトの物語に描かれた木々の戦いの世界を緩急自在の撥さびきで披露した。

立教大学の横山安由美教授と、椋山女学院大学の伊藤信博教授を交えたシンポジウムでは、世界各地に古くから伝わる植物が描かれた物語の世界を時代や言語、文化の枠を越えて語り合った。

最新の著作権制度を学ぶ FD講演会を開催



教育開発推進機構主催のFD講演会が11月20日、渋谷キャンパスで行われた。一部の規定を除いて今年1月に施行された改正著作権法について、神奈川大学の中村壽宏教授が「著作権法改正が大学教育に与える影響」と題して講演。出席した専任教職員は、学術情報の蓄積・公開から教員の教材作成、研究論文執筆など、日々の研究教育活動に密接にかかわる著作権制度に関する留意点や新たな情報に熱心に耳を傾け、理解を深めた。



「AIと脳」テーマに 文化講演会

茂木さん「前頭前野を使おう」

脳科学者の茂木健一郎さんを講師に招いた令和元年度の文化講演会が11月16日、渋谷キャンパスで開催された。演題は「AI時代を生き抜く脳トレ」で、詰め掛けた170人を超す受講者は既に生活の一部に取り込まれているAI（人工知能）と上手につきあうスキルを学んだ。

講演の冒頭、茂木さんは「大学の授業で慣れているから」と黒板の使用を要望。思いつくまま重要な単語や数式を書き連ね、果ては「今後は成長させたい分野」としながら猫のイラストを描くなど熱のこもった講義を展開し、受講者を楽しませた。

本題ではテレビのクイズ番組を例に挙げ、「AIは正解がある問題を得意とするので、クイズ番組で活躍するような人はいなくなる」と指摘した。また、「AIが選んだ女の子と付き合うか？」など分かりやすいテーマを振ることで、AIと人間の

脳との違いを紹介。「AIは何度も試行錯誤を繰り返すことで学習をするが、人間は一度の失敗でも学ぶことは多い」「AIは劣等感を持たないが、人間は劣等感が邪魔をすることがある。しかし、それが人間の個性につながる」と述べた。

さらに、本学の陸上競技部が出雲駅伝で初優勝したことを取り上げて、「お隣の青山学院大学ばかりが強いわけではない。東洋大学もいれば国学院大学だって強い。正月の箱根駅伝は面白くなりそう」とし、予測のつかない状況での頭の使い方のコツを与えた。

結論として茂木さんは「前頭前野を使うことを心掛けることが必要。正解のあることはAIに任せ、(前頭前野がつかさどる)意志決定や判断が求められる正解のない問題や前例のない事例に向き合えないとAI時代を生き抜くことは難しい」とした。

国内外派遣研究員決まる

国学院大学の令和2年度派遣研究員「研究課題」研修先、派遣期間が次の通り決定した。

【国内派遣研究員】

- ◇文学部：金杉武司教授「クオリアの反自然主義的な存在論的理論としての素朴実在論の擁護」国学院大学図書館、国立国会図書館、東京大学付属駒場図書館、10月1日～令和3年3月31日
- ◇土佐秀里教授「万葉集の文字表現と語彙の研究」国学院大学図書館、国文学研究資料館など、4月1日～令和3年3月31日
- ◇スコット・スピーアーズ准教授「鎌倉・南北朝期の歌壇研究および歌書伝搬に関する調査・研究」国学院大学図書館、国文学研究資料館、4月1日～令和3年3月31日
- ◇長谷川清貴准教授「先秦漢代における諸子思想史の研究」国立国会図書館、国立公文書館、東京大学東洋文化研究所、二松学舎大学付属図書館、国学院大学図書館など、4月1日～令和3年3月31日

◇経済学部：小木曾道夫教授

「育児と介護を阻害する自明性の研究」国学院大学図書館、0814研究室、4月1日～令和3年3月31日

◇金子良太教授「公会計の

実践的研究(公益法人における簿記会計の研究・社会福祉法人会計の再構築・地方自治体における包括外部監査の実践)」1004研究室、4月1日～令和3年3月31日

◇藤山圭准教授

「大規模技術システムの技術革新史」国学院大学図書館、0913研究室、4月1日～令和3年3月31日

◇神道文化学部：藤本頼生准

教授「現代社会における神社の公共性・公益性および社会貢献活動に関する宗教社会学的研究」京都大学こころの未来研究センター、千葉大学大学院人文公共学府、神宮文庫、皇学館大学研究開発推進センター、国立国会図書館など、4月1日～令和3年3月31日

◇教育開発推進機構：戸村理

准教授「近現代日米私立高等教育機関における教員管

理職の基礎的研究―教学と経営の関係性に着目して―」東京大学大学院教育学研究科、同志社大学社会学部、広島大学高等教育研究開発センター、ハーバード大学ユニバーシティ・アーカイブスおよびロックフェラー・アーカイブ・センター(米国)、4月1日～令和3年3月31日

【国外派遣研究員】

- ◇文学部：金杉武司教授「クオリアの反自然主義的な存在論的理論としての素朴実在論の擁護」中央ヨーロッパ大学(ハンガリー)、4月1日～9月30日
- ◇樋口秀実教授「『大東亜共栄圏』下における戦後国際秩序の萌芽について―アジア・太平洋戦争末期における日中編関係に注目して―」雲南大学東南アジア研究所(中国)、10月1日～令和3年9月30日
- ◇法学部：安田恵美准教授「拘禁の継続に不可避な『自由の制限』と内部規則による『自由の制限』の関係に関する日仏比較法研究」ランス・シャンパーニュ・アルデンヌ大学(仏国)、10月1日～令和3年9月30日

大学院法学研究科

学問と実践の両輪で新しい学びを

令和2年4月、「公務員養成コース」を新設

本学大学院は令和2年4月、公務員を志望する学生の夢の実現を後押しする「公務員養成コース」を法学研究科に新設する。目指すのは、公務員試験の合格とともに、任用後も学術的基礎に基づいた活躍ができる人材の養成。地方自治体の現役公務員ら実務家教員が担当する科目「公共政策演習」を導入することにより、「実務に生かせる深い学び」を提供する。法学研究科幹事の高橋信行教授（行政法実践研究）と、講師を務める東京都渋谷区教育委員会生涯学習・スポーツ振興部の木下毅彦部長に、地域を支えるカギとなる公務員の養成にかけの思いを聞いた。



法学研究科幹事の高橋信行法学部教授(右)と東京都渋谷区教育委員会生涯学習・スポーツ振興部の木下毅彦部長

インタビューの詳細は、本学ホームページ内「国学院大学メディア」に掲載。



司会 公務員養成コースの狙いと特色は
高橋教授(以下、高橋) 公務員を志望する学生の中には、留年しながら再チャレンジする人や卒業して再挑戦する人もいます。こうした孤軍奮闘している学生を支援することが必要だと考えました。いわゆる公務員予備校と差別化を図る、大学院ならではの科目が「公共政策演習」です。地方自治体の現役公務員や公務員OB・OGに講師となってもいい、自治体が抱える政策問題を材料に解決策を検討します。単なる受験テクニックに偏ることなく、試験問題の背景にある理論や判例についても学ぶことで、公務員として働き始めた後に必要となる問題解決能力も鍛えられます。

大学院生による 条例案策定に期待

司会 地方自治体にとって人材育成という意義もある
木下部長(以下、木下) 情報化が進んだことで、世の中の流れはずいぶん早く変わりました。実際の昇任スピードも早まっていて、早期から責務も能力も求められます。採用する側からすると、どうし

木下 具体的な事案に法律をどのように当てるか、課題を解決するかという点です。私

地域をさらに 生き生きと

司会 現役公務員として指導の際に注力することは
高橋 「大学院は社会から遊離している」「社会に役に立っていない」といった批判の声が今、とても多いです。「社会の需要に応えた大学院教育を提供している」と認めてもらえるよう導きたいです。
木下 自治体と大学、大学院が協働することで相乗効果が生まれます。学問と実践が両輪となって進んでいければ、地域がさらに生き生きとくるはずですよ。

司会 優秀な公務員を養成するための展望は
高橋 「大学院は社会から遊離している」「社会に役に立っていない」といった批判の声が今、とても多いです。「社会の需要に応えた大学院教育を提供している」と認めてもらえるよう導きたいです。
木下 自治体と大学、大学院が協働することで相乗効果が生まれます。学問と実践が両輪となって進んでいければ、地域がさらに生き生きとくるはずですよ。



令和2年度春季入試は来年1月出願受付開始

国学院大学大学院博士前期課程および同後期課程では、下表の日程で令和2年度の春季入試を実施します。詳しくは「学生募集要項」を参照してください。

問 大学院事務課(☎03・5466・0142)

大学院 令和2年度春季入試日程

研究科	入試区分	専攻	募集人員	願書受付期間	試験日合否発送	手続期間		
文学	前期	一般	神道学・宗教学	7名	【試験日】 2月13日(木) 【合否発送】 2月17日(月)	2月25日(火) ~ 3月3日(火)		
			文学	9名				
			史学	9名				
		外国人	神道学・宗教学	若干名				
			文学	若干名				
			史学	若干名				
	後期	学内成績選考	神道学・宗教学	若干名				
			文学	若干名				
			史学	若干名				
		学外成績選考	神道学・宗教学	若干名				
			文学	若干名				
			史学	若干名				
後期	一般	神道学・宗教学	3名	【試験日】 2月19日(水) 【合否発送】 2月22日(土)	2月25日(火) ~ 3月3日(火)			
		文学	8名					
		史学	8名					
	外国人	神道学・宗教学	若干名					
		文学	若干名					
		史学	若干名					
法学	前期	一般	神道学・宗教学			若干名	【試験日】 2月15日(土) 【合否発送】 2月22日(土)	2月25日(火) ~ 3月3日(火)
			文学			若干名		
			史学			若干名		
		外国人	神道学・宗教学			若干名		
			文学			若干名		
			史学			若干名		
	後期	学内論文選考	神道学・宗教学	若干名				
			文学	若干名				
			史学	若干名				
		学内成績選考	神道学・宗教学	若干名				
			文学	若干名				
			史学	若干名				
後期	一般	神道学・宗教学	5名	【試験日】 2月15日(土) 【合否発送】 2月22日(土)	2月25日(火) ~ 3月3日(火)			
		文学	5名					
		史学	5名					
	外国人	神道学・宗教学	若干名					
		文学	若干名					
		史学	若干名					
後期	学内推薦	神道学・宗教学	5名			【試験日】 2月15日(土) 【合否発送】 2月22日(土)	2月25日(火) ~ 3月3日(火)	
		文学	5名					
		史学	5名					
	学外推薦	神道学・宗教学	若干名					
		文学	若干名					
		史学	若干名					

『國學院雑誌』特集号を刊行

学術雑誌『國學院雑誌』の特集号「御代替わりの歴史と伝統」が11月15日に刊行された。今回は、御代替わりに関する古代から現代までの幅広い論考を収録している。論文の執筆陣は、岡田莊司名誉教授をはじめ学内外の研究者17人。

配布は渋谷キャンパス若木タワー11階の文学部資料室で行う。対象は文学部、神道文化学部、大学院文学研究科、専攻科、別科生。上記以外には1冊1100円で販売する。問い合わせは、文学部資料室(☎03・5466・4813)まで。

『國學院雑誌』は、明治27年に創刊された国内で有数の歴史を誇る月刊学術雑誌。本学の教員をはじめとする執筆者が、各分野の研究論文などを掲載する。

人間開発学会 次の10年へ人間開発学を再検討



人間開発学部の教員、学生らによって構成される学術活動および学生の修学・活動支援を行う「国学院大学人間開発学会」は11月9日、年に1度の大会をたまプラーザキャンパスで行った。冒頭、成田信子会長(副学長、人間開発学部長・教授)が「昨年10周年を迎えた。今回のシンポジウムのテーマは11年目にふさわしく、次の10年のスタートになる。議論を深めていきたい」と挨拶した。

第1部のシンポジウムは、『『人間開発』の再検討—その原点と将来を見据えて—』をテーマに、人間開発学部の3学科から渡邊雅俊教授(初等教育学科)、林貢一郎教授(健康体育学科)、山瀬範子准教授(子ども支援学科)が報告に立ち、今年度のFD活動の内容を紹介した。

続いて、藤田大誠人間開発学部副学部長・教授の司会のもと討議が行われ、会場に集まった教員からの発言などを交え活発な議論が交わされた。

第2部では平成30年度の学部共同研究成果報告が、第3部では平成30年度国学院大学人間開発学会研究奨励賞の表彰と受賞した渡邊教授による記念講演が行われた。

法学会講演会 アメリカ政治と世界情勢を考える



法学会講演会「トランプ政権の対外政策とアメリカ政治」が11月18日、渋谷キャンパスで開催された。日本国際問題研究所の舟津奈緒子研究員が講師として招かれ「アメリカ第一主義」と「道義的現実主義」をキーワードに、2016年の就任以降の米国・トランプ大統領の政治や外交政策について、講演した。同盟国の日本だけでなく世界に影響を及ぼす米国の政治と、トランプ大統領の考え方をわかりやすく説明した舟津研究員の講演に、参加した学生は熱心にメモを取っていた。



「未広」を披露する山本東次郎さん(右)

東次郎さん 「ここはホーム」 「狂言の会」6番組を上演

22回目を迎えた大蔵流山本東次郎家による狂言鑑賞会「狂言の会」が11月20、21の両日、たまプラーザキャンパスで行われ、2日間で6番組(演目)が上演された。訪れた人たちは、ユニスコ無形文化財「能楽」の一部である狂言の魅力堪能した。

今年には往復はがきだけでなく、ウェブからも参加希望の申し込みを受け付けた。山本東次郎さん(昭36卒・69期文)による丁寧な解説が好評を得ており、2日間で計800人の抽選枠に1200通が寄せられた。

開演に先立ち、初日は文科大学の田口和夫名誉教授が「狂言の昔と今 その二十一」と題して、狂言の2流派である大蔵流と和泉流のせりふによる表現の違いや演出方法に着目しながら、6番組のあらすじや見どころを紹介。「未広」「膏葉煉」「伊文字」の3番組を上演後、東次郎さんが舞台上で登場し、「ここ(本学)はホームだと感じている」とあいさつ。未広を

引き合いに出しながら、「人間の愚かしい心が起こす事件を、事件になる前の、芽の状態を描きたい。見た人がほっこりするような作りになっている」と解説した。続けて、小舞「貝尽し」を披露。毎年変わる6番組の構成については、「バランスを考え、楽しみながら選ばせていただいている」と明かした。

2日目は「察化」「伯母が酒」「悪太郎」を上演。一般の鑑賞者のほかに、特別枠で地元小学校の6年生約350人が招待され、教科書にも掲載されている古典芸能の舞台に見入っていた。

地元で配布されるフリーペーパーで狂言の会を知ったという初参加の60代女性は「東次郎さんが説明を尽くしてくれて、人間国宝でありながら、壁を作らない親切な人柄が分かり、感動した」と興奮さめやらぬ様子で振り返った。

学問ノ道 第22回

外国語研究室の盟主 英文学者・菊池武一

菊池武一は明治29(1896)年、香川県高松で生まれた。大正10(1921)年、東京帝国大学文学部英吉利文学科卒業。

卒業後、国際連盟事務局、府立第一商業学校を経て、昭和2(1927)年、日本女子大学教授。3年、国学院大学予科講師。戦後、東大の後輩・中野好夫の紹介で小津次郎を本学に招く。小津の人脈等を得て、専任・非専任を問わず、東大出の俊英を語学教師として招いた。27(1952)年に講師となった丸谷才一は後年こう語っている。「当時この大学のこの研究室には、英独仏



菊池武一

とか専任の教員と時間講師とかの区別なしで、思ひつくまに記せば、たとへば安東次男さんがあつた。故橋本一明があつた。中野孝次があつた。篠田一士があつた。永川玲二があつた。高松雄一があつた。川村二郎があつた。高本研一があつた。竹内芳郎があつた。菅野昭正があつた。清水徹があつた。飯島耕一があつた。三輪秀彦があつた。清岡卓行があつた。渡辺一民があつた。東野芳明があつた。こんな顔ぶれの研究室を維持してゆける主任教授としては、菊池さん以外の人は思ひ浮かばない。「われわれはみな菊池さんの、知的で寛容で勿体ぶらない人柄に心服してゐた。あるいは、菊池さんに甘えてゐた」(『低空飛行』)

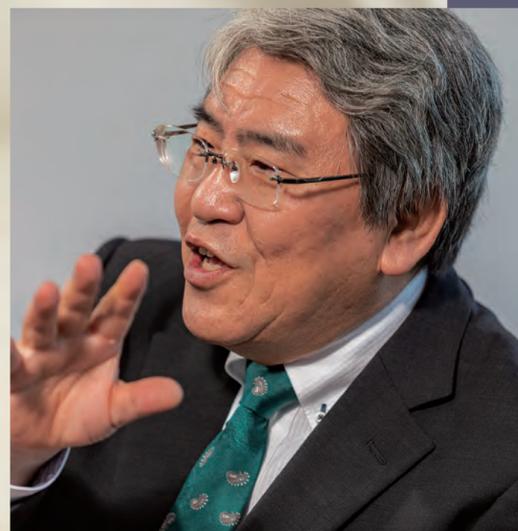
菊池は日本女子大学校では「英文学史」を講じ、演習で「シェイクスピア」を取り上げた。また、11(1936)年から13(1938)年にかけて、岩波書店からシ



菊池が翻訳した「シャーロック・ホームズ」三部作

ヤールロック・ホームズの『冒険』『回想』『帰還』(岩波文庫)の翻訳を刊行した。この菊池訳は、戦後も息長く読み続けられた。39(1964)年には、W・スコットの『アイヴァンホー』の翻訳の上巻を上梓したが、下巻は未刊のまま47(1972)年に亡くなる。その翻訳原稿は後輩で東大退官後、菊池が本学に迎えた高見穎治により整理され、49(1974)年に刊行された。

学術メディアセンター事務部
図書館事務課主幹
古山悟由



いよいよ3カ月後に迫った本学経済学部改組。15年ぶりに装いを新たにする経済学部はどう変わるのか？そして、どのような学びを得ることができるのか？「CHANGE & CHALLENGE」掲げる改組をリードする橋元秀一学部長・教授に「令和新时代」の経済学部の姿を聞いた。

Q 経済学・経営学を取り巻く環境は変化しているのか

A 1990年代以降の日本はバブル崩壊、リーマンショックなどを経験し、経済の目指すべき方向性が見えない事態に立ち至っている。世界をリードしてきた日本経済も問題にぶつかりながら、なかなか事態を打開できず低迷を続けている状況だ。

新しい時代を担う主体性

若者にとって、新しい時代をデザインしていくのが重要になるが、残念ながら日本経済全体の中で若者の活躍を組織できず、能力を生かし切れていない。その意味で、新しい時代に力を発揮してもらえようという環境をいかに整備するかというところが大切な。

Q そのような時代に経済学部を改組する目的と意義は

A 24年前に立ち上げた経済ネットワーキング学科は、新しい諸問題を現地に持って調査してかつ実践型の授業をさらに充実させる。

Q 改組による教育の特色は

A 徹底的に「専門基礎力と実践力」を鍛えることを目標とする。学部共通科目や各学科の基礎的科目を必修化する予定だ。えてして学生は簡単に単位が取れる「科目」に流れやすく、学びに系統性がない。基礎力を徹底的に身につけたうえで次のステップに進ませるために、必修科目の強化が必要だ。ゼミも主体性を発揮させる形へと改革し、「卒論や卒業リポート」

新たな方向性を見いだす人材育成を重視した。しかし、当時は新しいと思われていた情報化

地域問題、環境問題なども、今では当たり前となった。経済学部全体が現代の新しい諸問題に取り組みべきだと判断し、経済ネットワーキング学科での学びを学部全体へと発展的に解消させるのが狙いだ。

もう一つは、主体性が求められる時代を迎えること

「経済学や経営学の中で何を追求していくべきか」を学生自身に考えさせなければならない。その段階として徹底的に基礎力を身につけてもらうために「アクティブラーニング」を積極的に導入し、学びの中で基礎力を身につけた学生が自らさまざまな問題の解決を考えられるような学びに大きく舵を切った。1年生の基礎演習で6年ほどやってきたが、企業からももらった課題に対して解決策を考える課題解決型

トの提出も増やす。さらには、一般の講義型授業の「日本の経済」

「日本の経済」いわゆる経済学入門もアクティブラーニング化する。現在は新たな教科書作りに取り組んでいて、来年度にトライアルして再来年度には確定版を出版したい。そのようにして、学生の主体的な意識を生み出す授業に改革したい。経済学・経営学の入り口を改革するとすると教える側も手探りになるが、2年くらい検討を重ねてきていく。学部での学びからは離れるが、「絆つくりプロジェクト」を平成21年に始めた。先輩と後輩の絆を作りたいとプロジェクトを始め、先輩だから話れる本音で助言ももらっている。卒業生によって組織される院友経済会と経済学部が連携して学生も院友も共に学ぶ場を広げたい。院友にキャリア教育を学んだり、後輩と一つのテーマで議論できる場を作ったり、「卒業後も学べる経済学部」としたい。

CHANGE & CHALLENGE

令和「新时代」の「新」経済学部 —— 橋元学部長に聞く

インタビューの詳細は、本学ホームページ内「国学院大学メディア」に掲載。



「新」経済学部のキーワード

● 主体性ある学生を育てる

経済学部が独自に展開するファシリテーター・アドバイザー（FA）がさらに注目される。1クラスに入る人のFAが1人、教員とクラス内を回りながら授業を進めており、高校生向けの「E-Tour」でも、FAが先導役として活躍している。FAの活動を通じて社会人として生かせるスキルを身につけるもので、主体性を持って学びをリードする学生が育っている。

「管理職」になればかを見ると思ってしまう。なかなか目指したとらならない（橋元学部長）という近年の傾向を受けて創始したシステムだが、「具体的な結果を目標とせず、チームをまとめるファシリテーターの仕事に魅力を感じるタイプの学生も出てきている」（同）という新たな展開も見せている。

● さらにアクティブな学びに

1年次必修の「基礎演習」は20人程度の少人数クラスで、教員とFAがサポートする。グループワークやプレゼンテーション大会を通じて、学びの基礎スキルを身につける。

「基礎演習」ではこれまで6年間にわたって、外部から「10年後のコンヒニエンスストアの姿」（日本チェーンストア協会）、「若者の本離れに対して歯止めをかけ、読書に親しむようになるために、今、本屋がどのような価値（取り組み）を提供できるか？」（青山ブックセンター）といったテーマを提示してもらい、10回のグループワークによって解決策を検討。年末のプレゼンテーション大会で報告してきた。今年は東京五輪・パラリンピックによる影響を踏まえたうえで、その後の日本社会のあるべき姿を「経済、社会や企業経営を踏まえて具現化し、実現に向けた具体的な取り組みを提案すること」をテーマに、検討を重ねてきた。12月4日の大会では、事前の予選を突破した7チームが、競技施設の利用やスポーツ振興による健康寿命の延伸などを課題に掲げ提案を行った。

● 専門基礎力と実践力の強化

学部共通科目や各学科の基礎的科目の必修化は、経済学・経営学の専門基礎力の強化につながる。系統性を持った「基礎」を身につけることで、「教育の質保証」も実現できる。経済学・経営学を学ぶ、さらに実践するうえで欠かせない英語に関しても、ネットワーキングによる授業を重視する。以前からの共通教育だけでなく、ビジネスイングリッシュなどの専門科目や次のステップの英語授業も全てネットワーキングによる授業とし、実践力を鍛える。また、実践力を学ばせるため、ビジネスゲームを利用した模擬実践のような授業や経済学部独自のインターンシップを展開することにも注力。最新の現場について話を聞く「現代の企業経営」や、「雇用と働き方」という授業の中で経営者や働く者目線でのオムニバス授業を整備する。

● 学びの成果を「カタチ」に

現状では学部全体の5、6割の学生がゼミに所属し、そのうち7割（全体の3分の1）しか提出していない卒業論文。それを「学びの締めくくり」として重視する方向となる。ゼミに入らなくても卒業論文が必修で、ゼミに入らない場合でも卒業リポートの提出が必ず求められる。自分の学びの成果を提出することが義務づけられる。成果物の提出が求められるようになることで、学部での学びがしっかりと身につく効果が期待される。自分の主体性を身につけてきた学修の証として提出する成果物はどんなものになるのだろうか？ 楽しみだ。

第15回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト

折口信夫賞に中島渚さん(鹿児島・屋久島高)



「地域の伝承文化に学ぶ」コンテストは、各地域に伝わる昔話や伝説、郷土料理や方言などの身近で当たり前の風景にある「地域社会」に目を向け、文化を掘り起こして向き合うことよって現在の私たちにできることを考えてもらおうと開催。本学の持つ伝承文化に関する資産に触れることで、さらに研究を深めてもらうことも狙っている。平成17年から開催され、15回目となる今回は全国から609点の応募があった。内訳は、地域文化研究部門の団体49点・個人346点▽地域民話研究部門の団体76点・個人129点▽学校活動部門9点だった。

最も優秀な作品に授与される折口信夫賞に地域文化研究部門(個人)

折口信夫賞

「民具を活用したレクリエーションが参加者に与える影響」
中島渚(鹿児島・屋久島高3年)

地域文化研究部門

《団体》
最優秀賞 「イチイからたどる『飛騨のなりたち』—飛騨の伝承文化に学ぶ—」(岐阜・益田清風高 地域研究)

優秀賞 「知られざる深良用水の恩恵—深良用水の恩恵は深良(裾野市)だけではなかった。〜」(静岡・沼津城北高 情報メディア部 用水班)
「出雲の神話が語ること」(東京・香蘭女学校 高等科 出雲研修)

個人

最優秀賞 「民具を活用したレクリエーションが参加者に与える影響」(中島渚(鹿児島・屋久島高3年))
優秀賞 「高田富士考—新宿区のともしび 地域性を追いかけて—」(八木つきの(東京・東洋高3年))
「白雲地の地歌舞伎〜地域の伝承文化を学び、受け継ぐ〜」(田口真江(岐阜・益田清風高2年))

地域民話研究部門

《団体》
最優秀賞 「こんななんあったけん調べてみた!!—久谷地区・砥部町の伝承たち—」(愛媛・東温高 郷土芸能部)

優秀賞 「『今昔物語集』巻三十第十の意識的欠字部分について〜舞台は古代下野国塩谷郡だった〜」(栃木・矢板東高 リベラルアーツ同好会)
「『謝文旦』は実在したのか〜阿久根から世界へ: 海の道の歴史をたどって〜」(鹿児島・鶴翔高 地域文化研究同好会)

個人

最優秀賞 「日本人と『桜』の伝説について」(砂野光咲(愛媛・済美平成中等教育学校4年))
優秀賞 「河童の甕」(井上万結(東京・国際高2年))
「オランダ観音さま〜馬が繋いだ流山の物語〜」(坂入菜緒(千葉・流通経済大学付属柏高2年))

高校生向けコンテスト『入賞作品集』を制作中

今回のコンテスト入賞作品を掲載した「全国高校生創作コンテスト入賞作品集」「『地域の伝承文化に学ぶ』コンテスト入賞作品集」を来年2月下旬に刊行の予定です。同作品集は、無料配布いたします。発送をご希望の場合は、希望部数と送付先をご連絡ください。

問 総合企画部広報課 (☎03・5466・0130)

「地域の伝承文化に学ぶ」コンテストは、各地域に伝わる昔話や伝説、郷土料理や方言などの身近で当たり前の風景にある「地域社会」に目を向け、文化を掘り起こして向き合うことよって現在の私たちにできることを考えてもらおうと開催。本学の持つ伝承文化に関する資産に触れることで、さらに研究を深めてもらうことも狙っている。平成17年から開催され、15回目となる今回は全国から609点の応募があった。内訳は、地域文化研究部門の団体49点・個人346点▽地域民話研究部門の団体76点・個人129点▽学校活動部門9点だった。

地域文化研究部門(団体)

「幻の基目寺飛行場〜戦後74年目証言を聴く〜」(愛知・杏和高歴史研究グループ)▽「因幡の手笠踊りについて」(鳥取・八頭高 因幡のカサ踊り研究会)

個人

「清水町から世界へ〜こうじの謎に迫る〜」(静岡・沼津城北高 こうじ研究チーム)
「矢合観音と水 現代に続く民間信仰」(愛知・杏和高チーム観音)

地域民話研究部門(団体)

「木遣り音頭研究序説〜歌声をたよりに〜」(木村心優(愛知・杏和高3年))▽「新たな時代の『伝承文化』のカチとは?—3点の伝承文化の現状からみる、人、技術、心のすがた—」(森拓斗(鳥取・米子北高2年))

個人

「北条実時とウナギ井戸伝説」(田中美衣(神奈川・鎌倉女子大学高等部2年))▽「義経伝説と白旗神社」(中野亜美(神奈川・鎌倉女子大学高等部2年))

最優秀賞の「民具を活用したレクリエーションが参加者に与える影響」(中島渚さん、鹿児島・屋久島高3年)が選ばれたほか、各部門の最優秀賞、優秀賞、佳作、入選が別表(敬称略)のように決まりました。

地域文化研究部門(個人)

「地域行事の継承の問題とこれから」(長谷川真由(兵庫・長田高2年))▽「交換日記」(本田雄瑠(兵庫・長田高2年))▽「花火」(伊藤寛子(千葉・渋谷教育学園幕張高2年))▽「息を吸う」(梶原翠(埼玉・浦和第一女子高3年))

個人

「『おたちきさん』〜伝承の謎に迫る〜」(愛媛・西条高 地域・歴史研究部)▽「南総里見八犬伝〜群馬の里見家と大河ドラマ実現について〜」(群馬・高崎商科大学付属高文芸部)

地域民話研究部門(個人)

「北条実時とウナギ井戸伝説」(田中美衣(神奈川・鎌倉女子大学高等部2年))▽「義経伝説と白旗神社」(中野亜美(神奈川・鎌倉女子大学高等部2年))

学校活動部門

「審査員(敬称略)」(小川直之(本学文学部教授)▽常光徹(国立歴史民俗博物館名誉教授)▽大石泰夫(本学文学部教授)▽花部英雄(同)▽佐藤美穂(本学客員教授)▽高橋大助(本学文学部教授)▽飯倉義之(本学文学部准教授)

高校生向けコンテスト入賞作決定 応募総数2万点を超える

国学院大学とスクールパートナーズ(高校生新聞社)による第23回全国高校生創作コンテスト(協賛・国学院大学若木育成会・国学院大学院友会・国学院大学北海道短期大学部・後援・文部科学省・全国高等学校長協会・全国高等学校国語教育研究会)は、12月1日に渋谷キャンパスで両コンテストの表彰式が行われた。今回は両コンテスト合わせて2万4611点の応募があり大きな盛り上がりを見せた。

最優秀賞受賞者 喜びの声

折口信夫賞・地域文化研究部門(個人) **中島 渚さん**(鹿児島・屋久島高3年)
このような賞をいただくことができ、とてもうれしく思います。研究は、屋久島歴史民俗資料館や屋久島町福祉センター縄文の苑の職員、地域の高齢者や高校生など、多くの方々の協力を得て行うことができました。少しでも民具に興味を持ってもらえたら幸いです。

地域文化研究部門(団体) **岐阜・益田清風高 地域研究**(代表:松井夕乃さん)
まさか受賞するとは思わなかったですけど、最優秀賞というとても素晴らしい賞をもらえてとてもうれしかったです。自分で実際に地域の方に話を聞くことで、どれだけつらく大変なことだったのか体験することができていい勉強になりました。

地域民話研究部門(団体) **愛媛・東温高 郷土芸能部**(代表:小椋諒亮さん)
選考結果を見て涙が出るほどうれしく思いました。3年連続地域民話部門に出品して、1年次選外、2年次佳作、3年次最優秀賞と努力を積み重ねていってステップアップできたことを誇りに思います。

地域民話研究部門(個人) **砂野 光咲さん**(愛媛・済美平成中等教育学校4年)
自分が興味深いと感じ、研究してきたものがこのような形となって他の人にも認めてもらえてうれしいです。たくさんのお話を聞いたり、調べたり、詳しく調査するのは大変でしたが、地元・愛媛についての理解が調査を通してより一層深まりました。

第23回 全国高校生創作コンテスト

文部科学大臣賞に安房高(千葉)



全国高校生創作コンテストは、創作活動を通じて文章を書く喜び、ものを創り出す苦しさ、自分の考えを言い表す難しさを感じ取りながら、美しい日本語の再発見と学修を目的として平成9年から開催されている全国規模のコンテスト。今回で23回目を迎え、全国から1万9852点の応募があった。内訳は、短篇小説の部669点▽現代詩の部852点



▽短歌の部7726点▽俳句の部1万605点だった。

厳正な審査の結果、最優秀学校賞の文部科学大臣賞などが別表(敬称略)のように決定し、文部科学大臣賞には安房高(千葉県)、特別学校賞に明善高(福岡県)と長田高(兵庫県)が選ばれた。

若木タワーで行われた表彰式には、入賞者と関係者、審査員、石川

短篇小説の部

「灰色の屋上」(吉田恵(福岡・筑紫丘高1年))▽「籠城の演目」(比江島凜(宮崎・宮崎東高3年))▽「機械仕掛けのヒーロー道」(水田里緒(神奈川・横須賀高2年))▽「ぐりーんあぶる」(瀧口夏鈴(東京・安田学園高2年))▽「遊離魂」(溝上大翔(東京・巣鴨高1年))

現代詩の部

「もの思い」(小坂橋彩花(群馬・高崎商科大学付属高1年))▽「感情の詰まったベクトル」(安田武流(神奈川・麻生高2年))▽「金曜日」(浜口すず(東京・日比谷高1年))▽「幽霊」(本領里緒(東京・田川調布雙葉高2年))▽「かわい」(川上紗和(岡山・岡山学芸館高2年))

短歌の部

「夜明け」(川口るみ(福岡・明善高2年))▽「足踏みオルガン」(菊地愛佳(東京・女子学院高2年))▽「溺れる季節」(島川亜弓(沖縄・N高沖縄伊計本校3年))▽「家族」(関口凌真(埼玉・春日部東高2年))▽「銀」(小俣卓紀(東京・桐朋高1年))▽「みじん切り」(牛島伸陽(福岡・明善高2年))▽「S.E.T.sail」(椿伸太郎(鹿児島・ラ・サール高3年))▽「太陽の裏」(牧野かれん(東京・国際基督教大学高2年))▽「花火」(伊藤寛子(千葉・渋谷教育学園幕張高2年))▽「息を吸う」(梶原翠(埼玉・浦和第一女子高3年))

文部科学大臣賞

安房高(千葉)

特別学校賞

明善高(福岡) / 長田高(兵庫)

短篇小説の部

優秀賞
「魂の怨嗟」登裕太郎(東京・文化学園大学杉並高2年)
「神のみぞ知る」柏倉美彩子(東京・東京純心女子高2年)

現代詩の部

最優秀賞
「僕と乳房」吉田真子(兵庫・神戸大学付属中等教育学校4年)

優秀賞

「タイムリミット」村上陽香(北海道・立命館慶祥高2年)
「立ち止まって、一步」内藤結月(埼玉・淑徳与野高2年)

短歌の部

最優秀賞
徳森大悟(鹿児島・ラ・サール高3年)

優秀賞

中川莉果子(石川・北陸学院高2年)
松井彩徒(千葉・安房高1年)

俳句の部

最優秀賞
鈴木萌晏(岩手・水沢高2年)

優秀賞

野城知里(埼玉・星野高2年)
川口るみ(福岡・明善高2年)

最優秀賞受賞者 喜びの声

現代詩の部 **吉田 真子さん**(兵庫・神戸大学付属中等教育学校4年)
驚きあまりに大きすぎて、うれしさや照れくさは遅れてやってきました。母には「私の電話の聞き間違いかもしれない」と言われました。詩集を読んでインスピレーションを得ようとしてみたりしていましたが、自分が普段感じて考えている以上のものを詩にすることはできないなと思いました。

短歌の部

徳森 大悟さん(鹿児島・ラ・サール高3年)
先生から受賞を知らされたときは、うれしさより驚きのほうが大きかったです。半濁点が文字につくと、発音したときはもちろん、表記されているときにさえその文字の持つ雰囲気やニュアンスを優しくします。「人間関係でもそういうことができればなあ」と思ったことがこの歌のきっかけです。

俳句の部

鈴木 萌晏さん(岩手・水沢高2年)
正直開いた口が塞がらないとはこのようなことを言うのかと思うくらい驚きました。句作の際、コーチの先生が「虚が強くないように。自分の実感を大切に」と毎回おっしゃっています。この句を作る際も改めて自分の実感を大切にすることによって、いい句というのは必然的に生まれてくるのだなと感じました。

審査員(敬称略)

◎短篇小説の部▽中村航(作家)▽傳馬義澄(本学名誉教授)▽井上孝雄(東京都立高教諭)◎現代詩の部▽水無田気流(詩人)本学経済学部教授◎短歌の部▽田中章義(歌人)◎俳句の部▽堀本裕樹(俳人)

佳作

林優子(埼玉・浦和第一女子高2年)▽赤松彩葉(大阪・堺東高2年)▽川島楓太(群馬・太田高2年)▽川島楓太(群馬・太田高2年)▽花澤希海(千葉・幕張総合高3年)▽藤田華緒(群馬・太田高2年)▽木村夢(愛知・幸田高3年)▽河端春香(埼玉・浦和第一女子高1年)▽高田麻由(北海道・旭川龍谷高2年)

入選

【審査員(敬称略)】◎短篇小説の部▽中村航(作家)▽傳馬義澄(本学名誉教授)▽井上孝雄(東京都立高教諭)◎現代詩の部▽水無田気流(詩人)本学経済学部教授◎短歌の部▽田中章義(歌人)◎俳句の部▽堀本裕樹(俳人)

佳作

井上昂星(東京・立教池袋高3年)▽中田久善(静岡・浜松南高1年)▽岡村音乃(山口・熊毛南高1年)▽川村海斗(青森・七戸高2年)▽花澤希海(千葉・幕張総合高3年)▽藤田華緒(群馬・太田高2年)▽木村夢(愛知・幸田高3年)▽河端春香(埼玉・浦和第一女子高1年)▽高田麻由(北海道・旭川龍谷高2年)

入選

【審査員(敬称略)】◎短篇小説の部▽中村航(作家)▽傳馬義澄(本学名誉教授)▽井上孝雄(東京都立高教諭)◎現代詩の部▽水無田気流(詩人)本学経済学部教授◎短歌の部▽田中章義(歌人)◎俳句の部▽堀本裕樹(俳人)

佳作

水崎ゆず(岐阜・吉城高1年)▽森山和花(千葉・安房高1年)▽酒井るり子(愛知・淑徳泉鴨高3年)▽原田駿(愛知・名古屋高3年)▽高濱颯太(三重・三重高2年)

俳句の部

愛華(宮城・宮城第一高1年)▽今駿翔(青森・五所川原高2年)▽平野大夢(静岡・掛川東高3年)▽渡辺あみ(徳島・阿波高2年)

インフォダイジェスト

…在学生 …保護者 …卒業生 …一般 …受験生
内容 日にち 時間 場所 対象 申し込み 料金 問い合わせ

大学からのお知らせ

大規模災害被災者に対する入学検定料免除の特別措置について

本学では、「大規模災害学費減免制度」を制定し、災害対策基本法第2条第1項に定めた災害により被災し、「主たる家計支持者が、災害救助法適用地域に居住している」などの所定の要件を満たした新生・在学生への経済支援を実施しています。該当する受験生は、所定の手続きを行ってください。対象者、申請要件、申請期間などの詳細は、本学HP (<https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/admissions/p2/p6>) で確認してください。

kokugakuin.ac.jp/admission/admissions/p2/p6) で確認してください。

対本学への志願者のうち、主たる家計の支持者が「災害救助法適用地域」に居住し被災した者。または同地域に単身赴任や出張などで重度の被災を受けた者

問入学課(☎03・5466・0141)

大学入試に伴う入校制限

令和2年度大学入試センター試験および本学一般入試実施のため、会場となるキャンパスへの入校を右表の通りに制限します。なお、該当期間は課外活動を行うことができません。また、1月18日(土)は全日休講となります。

◆大学入試センター試験

渋谷キャンパス ※図書館の開館時間 1月17日:9時~22時、18、19日:10時~18時

日	時	立入制限区域など
1月17日(金) 入学試験準備日	16時以降	130周年記念5号館
	17時以降	若木会館、百周年記念館(地下2階、4階)
	19時30分以降	120周年記念1・2号館、総合学修館(6号館)
	21時以降	3号館
1月18日(土)・19日(日) 入学試験当日	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館(6号館)、若木会館、百周年記念館(地下1・2階、3・4階)

※1月17日19時30分~19日:国際交流センターと院友会館の通用門は封鎖

◆本学一般入試

渋谷キャンパス ※博物館は2月2日のみ休館

日	時	立入制限区域など
A日程 2月1日(土) 入学試験準備日	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館(6号館)、百周年記念館(地下1階、3階)
	15時以降	若木会館、百周年記念館(地下2階、4階)
	19時30分以降	学術メディアセンター
2月2日(日)~4日(火) 入学試験当日	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館(6号館)、学術メディアセンター(博物館を除く)、若木会館、百周年記念館(地下1・2階、3・4階) ※若木タワーは2月2日のみ
	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館(6号館)、学術メディアセンター(博物館を除く)、若木会館、百周年記念館(地下1・2階、3・4階)
B日程 2月25日(火) 入学試験準備日	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館(6号館)、学術メディアセンター(地下1階・3階)
	13時以降	若木会館、百周年記念館(地下2階、4階)
	19時30分以降	学術メディアセンター
2月26日(水) 入学試験当日	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館(6号館)、学術メディアセンター(博物館を除く)、若木会館、百周年記念館(地下1・2階、3・4階)
	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館(6号館)、学術メディアセンター(博物館を除く)、若木会館、百周年記念館(地下1・2階、3・4階)

※2月1日17時~4日、25日17時~26日:国際交流センターと院友会館の通用門は封鎖

たまプラーザキャンパス

日	時	立入制限区域など
A日程 2月1日(土) 入学試験準備日	終日	5号館
	13時以降	1・2・3号館、体育館、若木21
2月2日(日)~3日(月) 入学試験当日	終日	1・2・3・5号館、体育館、若木21

キャリアサポート

日経新聞読み方講座

ビジネスマンの教科書と言われる「日本経済新聞」を読みこなして就職活動をリードしましょう。講座では、難しいと思われがちな「日経新聞」を簡単に読むためのポイントや、就活に役立つ活用法、新聞記事からエントリー企業を見つける方法についても説明します。「日経新聞」を読みこなして、就職戦線を突破し、社会人としての基礎力を身につけましょう。

日 1月8日(水)4限

場 渋谷キャンパス

対 全学年対象

面接(個人・集団)対策講座

就職活動において、絶対に避けては通れないのが面接です。面接は1人では対策が取りづらく、練習の機会がありません。この講座は、個人面接や集団面接突破のポイントや、動画を交えて解説し、自ら体験を積み実践型トレーニングも実施します。面接は慣れが肝心になるので、この講座に参加して、経験を積みましょう! 2月に行われる模擬面接トレーニングと合わせて参加するのがお勧めです。

日 1月14日(火)6限、15日(水)3限か5限、16日(木)6限

※全4回は同じ内容になりますので、いずれかの時間帯に出席してください

場 渋谷キャンパス

対 3年生

【卒業前研修】新社会人講座

社会や職場で求められる社会人の常識やマナー、トラブル時の解決法やライフプラン、さらにはお金の問題など、新社会人として知っておくべき情報を2回に分けて学びます。1回目は「大学生が知らないライフプランと法律、お金の話編」、2回目は「知らない恥をかく社会人のマナー常識・非常識編」になります。4月になって慌てる前に、実践形式のワークでしっかり身につけよう!

日▶1回目=1月15日(水)4限

▶2回目=1月22日(水)3~4限

場 国学院大学院友会館

対 4年生

OB・OG内定者アドバイス会

メーカー(食品・製薬・自動車・化学など)、商社、航空、金融、マスコミ、レジャーなど学生人気の高い会社や官公庁で活躍する卒業生や内定者が、後輩たちのために仕事のやりがいや苦労などの本音や就活アドバイスを話します。現場の最前線で働く方の生の声を聞いて、自分の進路決定の参考にしましょう。

日 1月11日(土)13時~16時50分(入退場自由)

場 渋谷キャンパス5号館アリーナ

対 学部1~3年生、大学院1年生

※いずれも渋谷キャンパスで開催。詳細確認・申し込みはK-SMAPYIIの「就職/各種面談」→「セミナー申込」から

博物館

料無料

時 10時~18時(入館は17時30分まで)、12月23日(月)~来年1月10日(金)、20日(月)~24日(金)、2月2日(日)・10日(月)は休館

企画展「古物を守り伝えた人々ー好古家たち Antiquariansー」

「Antiquarians」とは「好古家」のこと。江戸時代中期以降、古器物に関心を寄せる人々が国学者や武家、町人など各層に広がり、彼らは総じて「好古家」と呼ばれました。日本の美術品受容の歴史をひも解くと、そこには古代より時の権力者や時代を担った文化人によってさまざまな形で展開されてきた事実があります。幕末維新期の混乱からの古器物の保護や、太政官による「古器旧物保存方」の布告など、どの局面においても事業を支える好古家たちがいました。

本展では、近代博物館黎明期を支えた「好古家」たちによる古物研究と収集に焦点を当て、彼らの果たした役割について明らかにしていきます。

日 1月25日(土)~3月15日(日)

場 博物館企画展示室

ミュージアムトーク

時 14時~14時30分

場 博物館ホール

料無料

- ①「古物を守り伝えた人々 Antiquarians」
内川隆志(当館副館長・本学教授)
日 1月25日(土)
- ②「静嘉堂 松浦武四郎コレクション」
内成澤麻子(静嘉堂文庫司書)
日 2月1日(土)
- ③「関西大学 本山彦一コレクション」
山口卓也(関西大学博物館学芸員)

日 2月15日(土)

④「松浦武四郎の大首飾りとヒスイの勾玉」

内川隆志(当館副館長・本学教授)

日 2月29日(土)

齋宮歴史博物館・国学院大学博物館公開講座「古代国家「日本」の原点と伊勢齋宮」

三重県明和町に置かれていた齋宮は、7世紀末の天武朝以降に整備が進められ、南北朝時代初頭まで続いた齋王の宮殿で、それを経済的に支えた官衙でした。齋王は御代替わりの年に伊勢に派遣された未婚の皇女で、伊勢神宮において国家と天皇の安寧を願う祭りに参加していました。齋宮の成立と変遷は、古代から中世前期にかけての我が国の祭祀の在り方を反映していると言えます。本講座では、古代国家の形成と祭祀の関連を軸に、わが国成立期の姿の一端に迫ります。

日 2月22日(土)

時 13時~16時50分

場 渋谷キャンパス常磐松ホール

料無料

問 定員300人(先着順)。本学HPの申し込みフォーム(<https://k-form.kokugakuin.ac.jp/m?f=424>)に必要事項を記入するか、往復はがきに郵便番号、住所、氏名(フリガナ)、電話番号を記入し「2/22 公開講座参加希望」と明記し、〒150-8440東京都渋谷区東4-10-28国学院大学博物館「伊勢齋宮」係へ申し込む。参加申し込みが受理されましたら、受講票を発行いたします。当日受講票をお持ちください。

※往復はがきの方には返信はがきを送付、ウェブの方はメールで返信

※博物館関連イベントの問い合わせは ☎03・5466・0359

英語教育センター

TOEIC® 学内テスト

英語教育センター(旧LLC)が団体受験特別制度(IP:Institutional Program)として実施するものです。公開テストとIPテストのスコアの有効性はTOEIC主催団体により同一とされていますが、一部企業、公務員採用試験、大学院入試などによっては公開テストの結果の提出を求められる場合もあります。

められる場合もあります。

日 2月13日(木)

時 13時集合、15時45分散(実際の試験時間は2時間)

場 渋谷キャンパス(教室は試験1週間前をめどにお知らせします)

料 3700円

対 学部1~4年生、大学院生

申 1月29日(水)までに自動証紙発行機で証紙を購入し、英語教育センター(渋谷)、たまプラーザ事務課に提出

問 英語教育センター(百周年記念館)

団体・個人の成績

蹴球部 = 東京都大学サッカーリーグ戦1部は10月20日、全日程を終了した。前期を首位で折り返した本学は、リーグ終盤に連敗を喫し、9勝7敗2分け・勝ち点29で4位だった。個人では山本アマディン選手(FW・健体4)が10得点を挙げ、得点ランキングで2位タイだった。

ソフトテニス部 = 関東学生秋季リーグ戦が11月2、3日に行われた。早稲田大所沢キャンパスで行われた男子は、11部構成の1部で春季の初優勝に続く連覇を狙ったが2勝3敗・勝ち点2で4位となった。

本学相模原グラウンドでリーグ戦が行われた女子(2部所属)は、2勝3敗・勝ち点2で4位だった。

バスケットボール部 = 10月27日まで行われた第69回関東大学女子バスケットボールリーグ戦で本学は、所属する3部Bブロックを首位(6勝1敗)で通過。順位決定戦で3位に入り2部との入れ替え戦に進出した。

玉川大との入れ替え戦(11月2日)は、前半リードを許すも第3クォーターに逆転し80-77で4年ぶりの2部昇格を決めた。

個人表彰では、3部優秀選手賞に岩崎夏実選手(外文4)が選ばれた。

ラグビーフットボール部 = 関東大学リーグ戦2部は11月24日、全日程を終了した。本学は2勝5敗・勝ち点13で、白鷗大、朝鮮大学校と勝ち点で並んだが得失点差で8校中6位となった。

国際協力サークル～優志～食を通じて里子支援

カンボジアの子供たちを支援している国際協力サークル～優志～が、カンボジアの施設で暮らす里子の養育費を支援しようと、大学生協のメモリアルレストランと連携した「アジアフードフェア」を7月と11月に開催した。同企画は今年で4年目となり、台湾まぜそばやカンボジア料理のアモック(白身魚のイエローカレー)などを1食500円で提供した。1食につき50円が養育費(年間3万円)として寄付され、今年は14万円余りが集まった。

プロジェクトリーダーの齋藤誠さん(外文3)は「支援をしているモオ・スレイニットさん(11歳)が18歳になるまでの養育費(年間3万円)の確保という目標を達成することができた。ホッとしている」と喜んだ。

久我山高校 駅伝、バスケ、サッカーで全国へ

国学院大学久我山高校の陸上競技部、バスケットボール部、サッカー部が、全国大会の切符を手にした。

陸上競技部は、12月22日に京都市で行われる第70回全国高等学校男子駅伝競走大会に2年ぶり22回目の出場。

バスケットボール部は、23日に武蔵野の森総合スポーツプラザ(調布市)などで開幕する第72回全国高等学校バスケットボール選手権大会に6年ぶり14回目の出場を果たした。24日の1回戦で出雲北陵高(島根県)と対戦する。

サッカー部は、準優勝を果たした第94回大会以来4年ぶり8回目の第98回全国高等学校サッカー選手権大会出場。30日に駒沢陸上競技場で行われる開会式直後の開幕戦で、前原高(沖縄県)と対戦する。



柔道部 相田選手が3位 —グランドスラム大阪2019

柔道の国際大会・グランドスラム大阪2019が11月22～24日、丸善インテックアリーナ大阪(大阪市中央体育館)で行われ、男子66kg級で、相田勇司選手(法2)がグランドスラム初出場で3位入賞を果たした。グランドスラムでの表彰台は平成24年の川上智弘選手(現・柔道部コーチ)以来。

今回のグランドスラムは、来年の東京五輪の代表選考に関わる大会。11月に行われた講道館杯全日本柔道体重別選手権大会で優勝した相田選手は、世界選手権優勝経験者の丸山城志郎選手(ミキハウス)や阿部一二三選手(日本体育大学)らとともに日本代表に選出され世界の頂点を目指した。

1回戦から登場の相田選手は、2回戦でリオデジャネイロ五輪銀メダリストのアン・パウル選手(韓国)に延長の末、一本背負投で技ありを奪って優勢勝ちを収めるなど各国の強豪を退け準決勝に進んだ。

平成29、30年の世界選手権を制している阿部選手との準決勝は、開始2分過ぎに背負投で一本

を取られ敗退。3位決定戦に回った。

3位決定戦は、スペインのダニエル・ペレス・ロマン選手との戦い。試合時間3分余りが過ぎたところで、袖釣込腰で技ありを奪い優勢勝ちした。

試合後、相田選手は「初めてのグランドスラムでメダルが取れたことはホッとしている。外国人選手には負けない自信があった。目標にしている2024年のパリ五輪へ時間があるので課題を克服していきたい」と前を向いた。



(左から)丸山選手、阿部選手、相田選手、西山祐貴選手(警視庁)

卓球部 阿部・小島ペアが初の全国ベスト8

第86回全日本大学総合選手権・個人の部が10月24～27日、島津アリーナ京都(京都市)で行われた。女子ダブルスに出場した阿部里歩選手



ベスト8に入った小島選手(左)と阿部選手(ニッタクニュース提供)

(神文2)・小島叶愛選手(初教2)ペアは、同部で初めてベスト8に進んだ。

2回戦から出場の阿部・小島ペアは4回戦で関東学生リーグで1部に所属する中央大の中澤紘・青木千佳ペアと対戦。第1ゲームからジュースにもつれる接戦となり、2-2で迎えた最終第5ゲームでは、先にマッチポイントを2度握られながら、13-11と逆転しベスト8入りを決めた。

準々決勝では格上の専修大の枝松亜実・木村香純ペアに第1ゲームをジュースの末に落とすと続くゲームも連取され0-3で敗れた。

強豪を退けてのベスト8に「(自身にとって)全国ランクの大会の入賞は久しぶり。あきらめなければ、結果につながる」(阿部選手)、「競った場面で勝ち切れたことは自信になった」(小島選手)と笑顔を見せた。

K:DNA——創立137年目を迎えた国学院大学の**遺伝子**…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

陸上競技部

箱根駅伝 エントリー選手発表 「強さを証明」往路優勝狙う



針本学長から襷を
手渡された土方主将(左)

令和2年1月2、3日に開催される第96回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)に出場する全21チームのエントリー選手16人が12月10日に発表された。10月に行われた出雲駅伝で学生三大駅伝初優勝を果たした本学陸上競技部は、「往路優勝、総合3位以内」を目標に掲げ4年連続13回目の箱根路に挑む。

13日に渋谷キャンパスで行われた壮行会では、針本正行学長から土方英和主将(健体4)に「国学院大学の魂を襷に乗せてつないでくれることを祈っている」とエールとともに古代紫の襷が手渡された。

前田康弘監督は「歴史を変える挑戦は終わっていない。(東海大、青山学院大、東洋大、駒沢大と並ぶ)5強の一角に入るまでに強さを証明してくれた。オール国学院で目標を達成し、『国学院大学ここにあり』という結果を出したい」と決意を語ると、出雲駅伝6区で4位から逆転し優勝の立役者となった土方英和主将(健体4)は「去年を上回る走りで往路優勝、総合3位という目標をチーム全員で達成する」と、2年連続の5区区間賞に期待がかかる浦野雄平選手(経営4)は「区間賞を取ってチームの目標に貢献したい」、全日本駅伝で区間賞を獲得した青木祐人選手(経ネ4)は「箱根駅伝は4年間の集大成。すべてを出し切り区間賞を目指す」と意気込みを語った。



壮行会で箱根駅伝での健闘を誓う前田監督(前列左端)と陸上競技部のメンバー

エントリー選手一覧(敬称略)

- | | | | |
|---|--|--|--|
|  <p>青木 祐人(経ネ4)
4年間の集大成。納得する走りで全日本に続き区間賞を取る。</p> |  <p>浦野 雄平(経営4)
箱根こそはなんとしても区間賞を取る。攻めの走りに注目を。</p> |  <p>土方 英和(主将・健体4)
出雲は自身学生初の区間賞だが、全日本は不完全燃焼。箱根は4年間で一番の走りをする。</p> |  <p>茂原 大悟(史4)
クレバーでパンチ力ある走りで前回、全日本の悔しさを晴らす。</p> |
|  <p>臼井 健太(健体3)
1年間たくさんの人に支えてもらった。感謝の気持ちでチームに貢献する。</p> |  <p>河東 寛大(神文3)
持ち味の後半の粘りで総合3位に貢献する。</p> |  <p>高嵩 凌也(法3)
幼い頃から目標の箱根でチームに貢献し満足のいく走りをしたい。</p> |  <p>田川 良昌(経済3)
親への感謝の気持ちを体現できる舞台。雰囲気にもまれずベストパフォーマンスを目指す。</p> |
|  <p>藤村 遼河(経営3)
落ち着いた走りでチームの目標達成に向けて頑張る。</p> |  <p>木付 琳(経2)
憧れの場所「箱根」で目指すは区間5番以上。積極的なレースを展開したい。</p> |  <p>島崎 慎愛(経営2)
全日本1区は悔しい思いをした。ラストスパートの競り合いで負けぬ走りを見せる。</p> |  <p>殿地 琢朗(健体2)
夢だった箱根は戦いの舞台。走りで貢献し喜びを分かち合いたい。</p> |
|  <p>藤木 宏太(神文2)
夢の舞台で自分に与えられた役割を全うする。</p> |  <p>川崎 康生(経営1)
箱根は大学に入学した理由そのもの。順位を上げる走りでチームに勢いをつける。</p> |  <p>中西 大翔(健体1)
出雲、全日本はチームに貢献できた。区間5位以内を目標に粘りの走りを。</p> |  <p>中西 唯翔(健体1)
全日本6区5位は最低限の走り。1年生らしい走りで夢舞台を駆け抜ける。</p> |

未来につなぐ 学術資産研究

近世の新嘗祭を図入りで描いた貴重な資料

「新嘗祭」神嘉殿図

本年11月14・15日、皇居東御苑にて大嘗祭の悠紀殿供饌の儀、主基殿供饌の儀が執り行われた。大嘗祭とは天皇が皇祖の天照大神に対して、即位後に初めて自ら神饌を供える祭祀である。これは一代に一度限り行われる祭祀であるが、翌年以降の毎年同日(明治6(1873)年以降は大嘗祭の斎行とは異なる11月23日)には新嘗祭が行われこととなる。

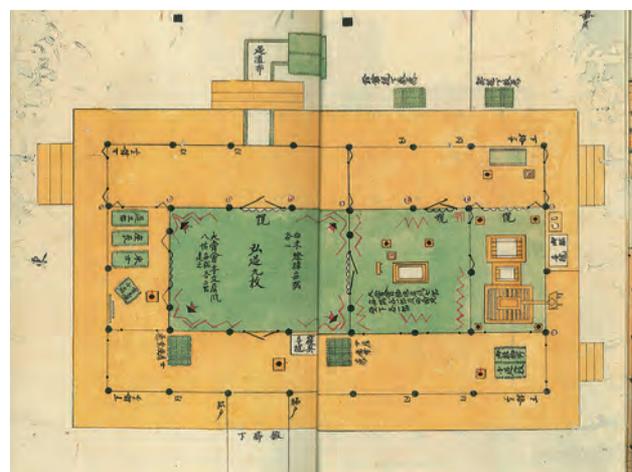
古代以来の新嘗祭は後花園天皇の寛正4(1463)年から280年近く中絶した。新嘗祭としての本格的な再興は、近世の桜町天皇の元文5(1740)年に果たされている。

今回紹介する神道文化学部所蔵「新嘗祭」は、近世の新嘗祭における、主に当日の次第に

ついて記された資料である。冒頭には、寛政3(1791)年に再建された神嘉殿の内部のしつらえを描いた右図を含め、清涼殿や紫宸殿など計4点の彩色図が載せられる。本図の神嘉殿は、宮内庁書陵部所蔵「新嘗祭神嘉殿敷設図」などの資料とおおむね同様の構造を示しており、東西の間数などの構造や用法が平安時代以来の神嘉殿とは若干異なっている。

大嘗祭と比べて、新嘗祭に関する絵図が描かれた資料はそこまで多く残されているわけではない。正確な成立年代は不明であるが、彩色図や朱筆が施された本資料は、新嘗祭の次第の理解に有用といえよう。

(研究開発推進機構PD研究員・木村大樹)



(神道文化学部所蔵、図下側が北)